

「殉職警察官之碑（森元巡查殉職碑）」について

大滝会特別会員 鹿摩貞男

(万世大路研究会)

旧万世大路（当時国道5号）の「昭和の大改修」（昭和8年4月～昭和12年3月）ではその起点付近に新沢橋が新設されている。現在、その米沢側に殉職した森元巡查を慰霊する「殉職警察官之碑」がある（現国道13号二ツ小屋駐車帯（大滝第2トンネルから600mほど米沢側）付近から右の山側の取付坂路を数分上ったところ、写真6）。明治21年（1888年）1月5日、旧万世大路における森元源吾巡查の遭難は、万世大路に関わる悲劇の逸話として、また警察官あるいは公務員のあるべき姿として長く語り伝えられるべきものと思われる。本稿は、その殉職碑を巡って関係筋の皆様からの聞き込みと関連の写真について取りまとめたものである。

1. はじめに

森元源吾巡查の遭難の経緯については、殉職碑碑文（写真3）にあるとおりであるけれども、古い遭難事件のため他の文献資料等はほとんど見当たらないようである。関係者からのお話やこの遭難事件を調べている方々の資料などを基に整理してみた。

2. 森元巡查遭難の経緯

(1) 遭難の経緯

森元巡查は、福島警察署飯坂分署二ツ小屋巡查駐在所（※1）に当時勤務していた。明治21年（1888年）1月4日被疑者を護送（※2）して飯坂分署に来署、翌5日の午後1時に出署し帰任の途についた。しかし、1月10日になっても帰所しないと連絡が二ツ小屋巡查駐在所から飯坂分署にもたらされた。

森元巡查が帰途についてから5日間も経過していることから、途中遭難した可能性が高いということで捜索を開始した。捜索隊は同署員及び人夫90余名で編成され、沿道はもとより付近一帯の山中まで捜索したけれども、2メートル余りの積雪に阻まれ発見することができなかった。

当日1月5日の森元巡查の足取りを追うと、午後5時30分頃、信夫郡中野村大滝にある旅館（高野幸吉方）へ立ち寄っていることが判明した（※3）。しかし、その後の足取りは掴めなかった。その夜の天候は暴風雪であったことから、進路を誤りおそらく遭難したものと思われる。積雪が深く発見することができなかったも

のであろう（写真11、12、13）。

その後も捜索がおこなわれたけれども森元巡查を発見するにはいたらなかった。しかし若葉が萌え出るころとなった5月1日に、信夫郡中野村字石小屋地内の山中で、雪の下に横たわる森元巡查の遺体を発見した。

5月3日、西白河郡白河町（現白河市）浄土宗系竜水山常宣寺の先祖の墓に並んで「真武院豪誉良劍居士」と刻まれた墓石が建てられた。享年41歳7月と記されてある。

(2) 殉職碑の建立

森元巡查の慰霊碑「殉職警察官之碑」（写真1、2、3）は、昭和35年（1960年）9月26日、遭難現場の近くの旧万世大路脇に建立された（現福島市飯坂町中野字石小屋地内）。

遭難事件から72年後のこの時期に慰霊碑が建立された経緯は不明である。碑文の原稿や旧跡の写真等資料も残っていないようである。ただ、何時の頃からか定かではないけれども、旧慰霊碑が建つまでは、森元巡查の遺体発見場所に地元中野地区住民（資料等がないので実態は不明）により木碑が建立され供養していたそうである。その木碑は3年に1度は建て替えられていたと云うことである。その場所は、慰霊碑の設置箇所とは別のところのようである。

昭和61年（1986年）12月の慰霊碑移転についても経緯についての詳細資料は残っていない。移転説明碑文（写真4、5）にあるように、旧国道13号の廃道後旧設置場所は雑草雑木に埋もれ、献花供養等が困難に

なってきた。そのため飯坂町防犯協会連合会や中野地区防犯協会などが「殉職碑移設準備委員会」を昭和61年11月に立ち上げ、地元有力者の方の協力を得て移転したということである。その場所には、現在車両で行くことは出来なくなっている。

3. 森元巡査の経歴及び森元家の出自等

森元家は、もともと武蔵忍藩の家臣の家柄である。文政6年(1823年)、藩主阿部正権(阿部白河藩初代)の白河移封(※4)に伴い移り住んだという。白河に来てからは、代々小野派一刀流の剣術師範として、道場町に森元道場を構えていた。殉職碑の中に森元一刀太の名前があり小野派一刀流の達人として紹介されている。

森元源吾巡査は、その森元一刀太の長男(※5)として嘉永元年(1848年)7月に白河で生まれた。

明治維新後、明治8年に福島県四等巡査を拜命し、西南戦争末期の明治10年7月に警視局(内務省)に巡査として出向したが間もなく退職、明治12年10月再び福島県四等巡査を拜命、石川・平・福島の各署を経て明治19年11月飯坂分署に配置換えとなり、二ツ小屋巡査駐在所に勤務していたものである。

「西南戦争出征福島県人名簿」に森元源吾巡査の名前があるという(「万世大路・大滝宿の住宅と生活」日本の廃道2013年9月91号所収、byTUKA「街道Web」)。このことから、森元巡査は西南戦争に従軍したことは間違いないであろう。

なお、遭難後、福島県においては、森元巡査の殉職は職務に基づくものとして、巡査看守給助例及び警察官弔慰法によって祭祀料その他を贈ってその霊を慰めたという。

4. 注釈及び解説

注(※1) 二ツ小屋巡査駐在所

本駐在所は、二ツ小屋隧道の福島側坑口付近に設置されていたようである(写真14)。

当該箇所には、万世大路開通時点(明治14年10月3日)では福島県の土木出張所及び労務者宿舎があった(『万世大路事業誌』:『福島県直轄国道改修史』(東

北地方建設局福島工事事務所、昭和40年3月、以下『改修史』111頁)。栗子隧道での開通式後福島へ向かう途中、明治天皇もその出張所でお休みになられている。それを記念した「鳳駕駐蹕之蹟」という石碑が二ツ小屋隧道右側に設置されている。

なお、この石碑は、昭和の大改修により設置場所が2mほど掘り下げられることとなったため、元の位置から数メートル右へ移動へしたものである。高さは明治期万世大路の路面の高さとほぼ同じで水平移動である(写真15、16)。元の位置(写真15の上方×印箇所)は、明治期旧道において前記福島県の土木出張所であった場所のようである(『栗子トンネル工事誌』1230頁)。また付近には詳細は不明であるけれども、後日になるが宿屋(複数)もあったようである(同掲書1221頁)。

駐在所は、特に集落のある場所に設置されたわけではなく、幕藩時代の関所のような役割を果たしていたのではないだろうか。万世大路は、開通当初殷賑を極めていたので、有事の際の検問所として設けられたものであろう。駐在所から二ツ小屋隧道を潜って約3km先(米沢側)には大平駅(集落)、約5.5km手前(福島側)には大滝駅(集落)があって、それぞれ旅客荷物の中継点として栄えていたと云う。

「中野新道雑記」によれば、現在の万世大路地区には明治14年10月の万世大路開通時点では2軒の家屋があって、大滝地区にはさらに「三四十ノ家屋ヲ建築スルニ足ル」平地があると記されている(『万世大路事業誌』:『改修史』112頁)。

その後、県による移住奨励もあり、その平地に多くの住民が移住してきたものと思われる。明治19年の時点では28~30名(戸)の移住者がおり、大滝集落の人口は100名程度あったと考えられている(『わが大滝の記録』PDF版17頁)。同じ頃、大平集落では20戸あったと云われるのでやはり100人近い人口だったのではなかろうか(上掲書18頁)。

駐在所の設置時期、廃止時期については不明である。しかし、開通後移住者がどんどん入って来ていることから、明治10年代半ばには設置されていたのではなかろうか。そして、明治32年(1899年)5月の南奥

羽線開通後には旧万世大路の交通量が激減したと云われているので、その前後に駐在所は廃止されたのではないかと推察する。

注(※2) 被疑者の護送

この被疑者は、何の事件の被疑者なのか現在は不明である。もっとも碑文では「囚人を護送」となっていて被疑者とは書いていない。最初これを読んだ時ある種の違和感をおぼえたものである。囚人と云えば未決囚も含むのではあろうが、被疑者(犯人)と云う言葉をなぜ使用しなかったのであろうか。被疑者(犯人)と云ってしまうと、事件のことに言及しなくてはならないからではないだろうか。どこから護送したかも書かれていない。意図的かどうかは別にしても、結果として「事件」が伏せられているような気がしないでもない。ある場所で「事件」が発生し、被疑者を逮捕してその護送後の帰路の遭難であるから、その「事件」や場所について述べるのが自然であると思う。その筋の方が囚人(未決囚以外)の護送と表記したのだとは思いますが、明治時代の司法制度は分からないけれども疑問を禁じ得ない。

なお、「本事件」については殺傷事件との伝承もあり、この殉職碑は、その犠牲者の鎮魂をも兼ねたものとも云われている(「万世大路・大滝宿の住宅と生活」「日本の廃道」2013年9月91号所収、byTUKA「街道Web」)。

この「慰霊碑」では、関係者により毎年供養式がおこなわれているという(平成24年8月14日「福島民報」)。

注(※3) 旅館(高野幸吉方)

この「旅館」とは宮内屋のことであろう。明治21年の宮内屋(高野家)当主は初代高野幸吉様である。大滝集落のもっとも早い住居(宿屋)はこの宮内屋(高野家)と隣の中屋(渡辺家、「鳳駕駐蹕之蹟」建立地)の2戸であると思われる(『万世大路事業誌』:『改修史』112頁)。

関係者の話では、森元巡査は遭難当日(1月5日)帰路旅館(宮内屋)に立ち寄ったという。しかし高野家に伝わる伝承では逆になっていて、いつも行き帰り

に休憩していくのに、森元巡査はその日に限って立ち寄らなかったとも云う。その理由は、猛吹雪のため帰所するのを引き留められるのを嫌って寄らなかったのではないかと考えられている。勿論飯坂分署へ向かう時は、囚人(被疑者犯人)を護送中であるから寄らなかったであろう。このことについては、いろんな解釈ができると思われるがここでは深入りしないこととする。いずれにしても宮内屋旅館が期せずしてキーポイントになっていることに注目しておきたい。

注(※4) 阿部正権の白河移封

文政6年(1823年)3月、武蔵国忍藩藩主^{まさのり}阿部正権に幕府から白河への転封が命じられ、同年9月28日に城の引き渡し(忍城)・引き受け(白河城)が終了している。しかし、病弱であった正権は新領地白河を見ることなく、同年10月6日江戸の上屋敷で18歳の短い生涯を終えている。阿部正権^{まさのり}は、阿部白河藩の初代藩主である。

森元家はこの阿部家の家臣でこの時に白河に移住してきたものと思われる。

白河阿部家は、徳川家康に使えた阿部正勝(その5代目正邦は備後福山10万石城主、白河阿部家の宗家)の流れを汲む譜代大名で、忍藩祖阿部^{ただあき}忠秋は3代將軍徳川家光の時代に老中として活躍し寛永6年(1639年)1月、武蔵国忍(埼玉県行田市)城主となり8万石を領した(阿部家三代^{まさよし}正能(老中)の時10万石となる)。忠秋から10代目が正権であり、阿部家は184年間忍を領した。

文政6年の転封は、「三方所^{ところが}替え」と云われるものだそうで、少しは知られた出来事のようなのである。すなわち、当時の白河藩主松平定永(松平定信嗣子)が先祖の地伊勢国桑名藩(三重県桑名市)へ、桑名藩主^{ただたか}阿部忠堯が武蔵国忍藩(埼玉県行田市)へ、そして忍藩主阿部正権が陸奥国白河藩(白河市)に同時に国替えとなったものである。現在この白河、行田、桑名の3市は友好都市として協定を締結している。因みに平成25年8月には締結15周年と云うことで友好都市企画展「部門の縁(えにし) 忍・桑名・白河、幕末の軌跡」を開催している。(『白河市史第2巻』平成18年2月、

白河市編集及び平成25年8月9日付け福島民報を基に整理した。)

注(※5) 森元一刀太の長男

殉職碑碑文(写真3)によれば、森元源吾巡査は「森元万太氏の男」として生まれたとあり、碑文最後の部分で「先代森元一刀太は小野派一刀流の達人」と記されている。碑文からは、「万太」と「一刀太」との関係は必ずしも明らかではないけれども、源吾巡査を主題とした碑文であれば、先代と云うからには源吾巡査の父上と解するのが自然であろう。関係筋の話によれば同一人物とのことである。

「明治4年9月棚倉県調阿部氏家臣禄高」(『矢吹町史第2巻』1977年9月、矢吹町編集、170頁)の中に「百式拾石 剣道師範御使番 森元万太」が見える。これが、源吾巡査の父上であろう。

白河阿部家は、17代正静の時(慶応3年(1866年)6月)、隣国棚倉藩(10万石)へ所替えを命じられている。阿部棚倉藩は、戊辰戦争(旧幕府軍と薩摩長州を主力とした討幕勢力との戦争)において、旧幕府軍側の奥羽越列藩同盟(慶応4年4月)の一員として戦ったが慶応4年(1868年)9月新政府軍(討幕軍)に降伏した。同じく9月には会津藩も降伏し東北戊辰戦争は終結した。その結果、棚倉藩は領地を一旦没収されているけれども、後に領地を6万石に減封されたものの復活している。従って、明治2年6月の版籍奉還では棚倉藩(18代、正功、棚倉藩知事となる)として残り、明治4年7月の廃藩置県において棚倉県となる。同年9月磐前県(当初平県)に統合、明治9年(1876年)8月には統一福島県(初代県令(知事)山吉盛典)に移行している。上記の家臣禄高は、まさにこの磐前県に統合する直前の棚倉県の旧藩士(職員)の状況を伝えるものである。

「殉職警察官之碑」の位置関係については、参考写真(9頁)、関連参考図(10頁)を参照のこと。

(本稿に関して、「街道 Web」TUKA氏からご教授頂いたほか資料の提供を受けましたこと深謝申し上げます。)



森元巡査「殉職警察官之碑」跡にて 左から中屋旅館4代目渡辺正義大滝会副会長、宮内屋旅館4代目弟伊藤弘治同理事、木村義吉同会長、筆者同特別会員 H241124。

【 殉 職 碑 関 連 写 真 集 】



写真1 移転後の「殉職警察官之碑」(当初昭和35年9月26日建立)全景、右側石碑は昭和61年12月建立 移転説明碑(新沢橋米沢側) H250427



写真2 「殉職警察官之碑」

【石碑前面・題字】

- 殉職警察官之碑
- 僧侶 龍山書

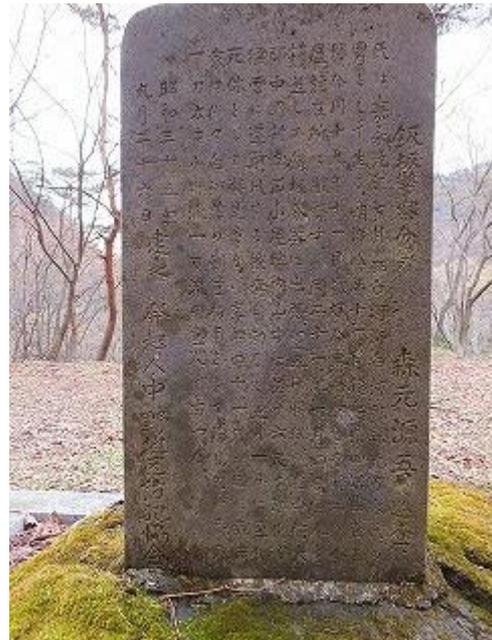


写真3 「殉職警察官之碑」後面、森元巡查の顕彰と遭難時(明治21年1月5日)の経緯

【石碑後面・碑文】

- 飯坂警察分署森元源吾巡查
- 氏は嘉永元年七月西白河郡白河町森元万太氏の
- 男として生る、明治八年十一月福島県四等巡查を
- 拜命同十九年十一月飯坂分署勤務となり二ツ小
- 屋註在所に服務す。同二十一年一月四日囚人を
- 護送して飯坂分署に出張、翌五日帰任の途中信夫
- 郡中野村字石小屋地内山中に於いて六尺を越ゆる
- 猛雪に遭難、凡ゆる捜査も効なく五月一日に至り
- 死体として発見さる。享年四十一歳、因みに森元
- 家は代々白河藩の剣道指南をして居り、先代森元
- 一刀太は小野派一刀流の達人であった。
- 昭和三十五年
- 九月二十六日建之 發起人 中野地区防犯協会
- (ルビ筆者)

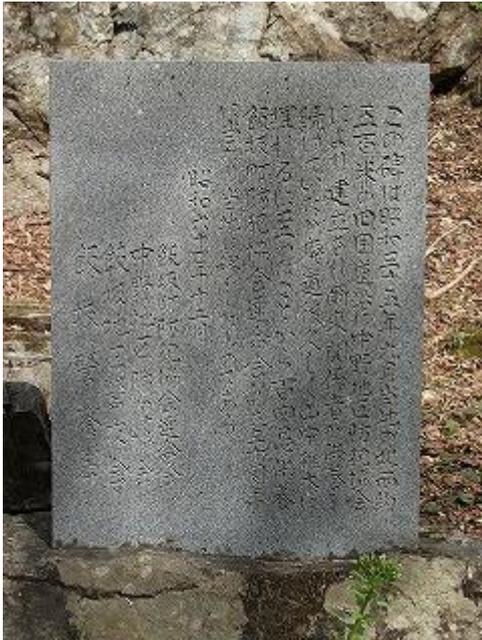


写真4 移転説明碑（昭和61年12月建立） H230503

【石碑前面・碑文】

- この碑は昭和三十五年九月に当地の北西約
- 五百米の旧国道沿いに中野地区防犯協会
- により建立され爾來関係者が供養を
- 続けていたが廃道後久しく山中雑木に
- 埋もれるに至ったことから百回忌供養
- 飯坂町防犯協会連合会創立三十周年
- に当たり当地に移したものである。

◦昭和六十一年十二月

- 飯坂町防犯協会連合会
- 中野地区防犯協会
- 飯坂地区警友会
- 飯坂警察署

※注

移動距離は、直線距離で約500m、道路距離では約1.8kmである。



写真5 移転説明碑後面（移転協力者名）H250427

【石碑後面・協力者名】

◦移設協力

- | | |
|------------------|-------|
| ◦交 通 安 全 協 会 | 飯坂支部 |
| ◦猟 友 会 | 飯坂支部 |
| ◦有限会社 櫻井運送 | 櫻井元七 |
| ◦旅 館 清 山 | 山岸清作 |
| ◦丸 中 白 土 株 式 会 社 | 紺野四郎 |
| ◦飯坂アポロガス株式会社 | 篠木勝司 |
| ◦映 電 社 | 佐藤庄平 |
| ◦有限会社 木村酒店 | 木村喜一郎 |
| ◦株式会社 サンレデイ | 渡辺定男 |
| ◦半田運輸整備株式会社 | 半田久三郎 |
| ◦株式会社 ホテル | 聚 楽 |
| ◦トーアエイヨー株式会社 | 福島工場 |
| ◦真言宗 新狐山 | 不動寺 |
| ◦揮毫 鈴木巍山 | |
| ◦施工 阿部石材 阿部紀利 | |



写真6 「殉職警察官之碑」と新沢橋。
旧万世大路米沢側から福島側を望む。H241124



写真9 森元巡查「殉職警察官之碑」跡（左階段箇所）と右側水無沢（仮称）H241124



写真7 明治期万世大路（初代）の掘割手前（米沢側）から森元巡查殉職碑（昭和の大改修・2代目万世大路・旧国道5号、13号）と、写真右上、3代目万世大路（栗子MWEI）・現国道13号を望む。H250427



写真10 森元巡查「殉職警察官之碑」跡。昭和35年（1960年）9月26日建立。昭和61年（1986年）12月新沢橋米沢側に移転。H241124



写真8 旧森元巡查殉職碑付近（右側木立群のすぐ左側）、福島側から米沢側を望む。万世大路「昭和の七曲」（勝手に命名）7段目で、第6号カブから100mほど米沢側に進んだ所。碑建立以前からこの辺りは「モリモト」と地元では称していた。



写真11 森元巡查遭難場所と思われる「水無沢」（仮称）上流を望む。明治21年（1888年）1月5日、森元源吾巡查は「六尺を越ゆる猛雪に遭難」する。写真立木は植林した樺（当時とは違う林相であろう）。H241124



写真12 明治期旧道「七曲」上り口付近(想定)を望む。森元巡査遭難箇所を彷彿とさせる地勢(写真①箇所)。旧大滝運搬路入り口からすぐ米沢側。下の道路は昭和の大改修による新設のバイパス道路(国道5号)。明治期旧道はこのすぐ上にあったと想定される。H241124



写真13 明治期旧道「七曲」第1号カーブ跡、写真12のすぐ上にある。H251027



写真14 ニツ小屋隧道福島側(左側)、旧ニツ小屋巡査駐在所跡付近(推定) 伊藤弘治氏撮影提供 H221106



写真15 「昭和の大改修」で改修されたニツ小屋隧道福島側坑門と移転された石碑(写真右端「鳳駕駐蹕之蹟」)。移転前は、現道路面×印箇所約2m上方の明治期万世大路(上方の×印箇所、移転先とほぼ同じ高さ)に建立されていた。旧設置位置(上方の×印箇所)は、明治天皇が御小休所された福島県土木出張所跡。隧道の拡幅(掘り下げ)に伴い前後の道路も掘り下げられたものである(下、写真⑬参照)。

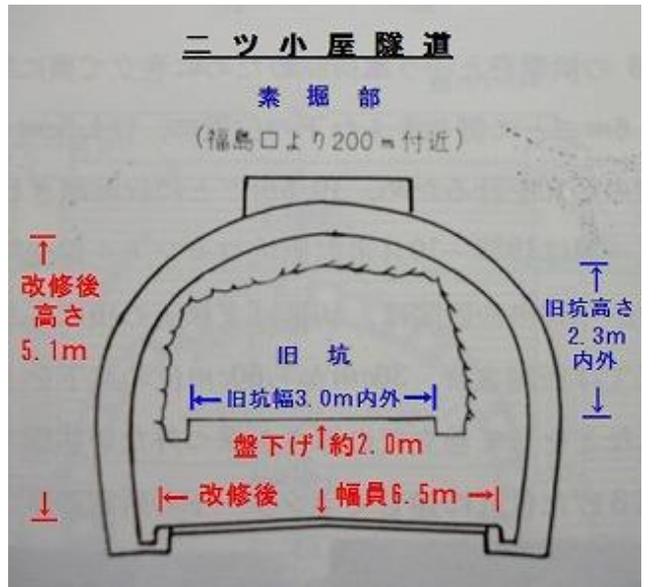


写真16 新旧ニツ小屋隧道参考図 明治期初代ニツ小屋隧道は、車両通行が可能となるように「昭和の大改修」で拡幅(掘り下げ)された。隧道改修工事工期：昭和8年(1933年)5月～昭和9年12月。
(『栗子トンネル工事誌』より作成)



【参考写真-1】旧万世大路昭和の大改修「石小屋～ニツ小屋区間」(「昭和の七曲」(勝手に命名)1段目～7段目途中)と現国道13号(栗子ハイウェイ、大滝第2トンネル～東栗子トンネル間)「月報東北地建」昭和41年6月号より作成



【参考写真-2】旧万世大路昭和の大改修「石小屋～ニツ小屋区間」(「昭和の七曲」(勝手に命名)5段目途中～7段目全景)、ニツ小屋隧道前ヘアピン道路。旧大滝運搬路全景

